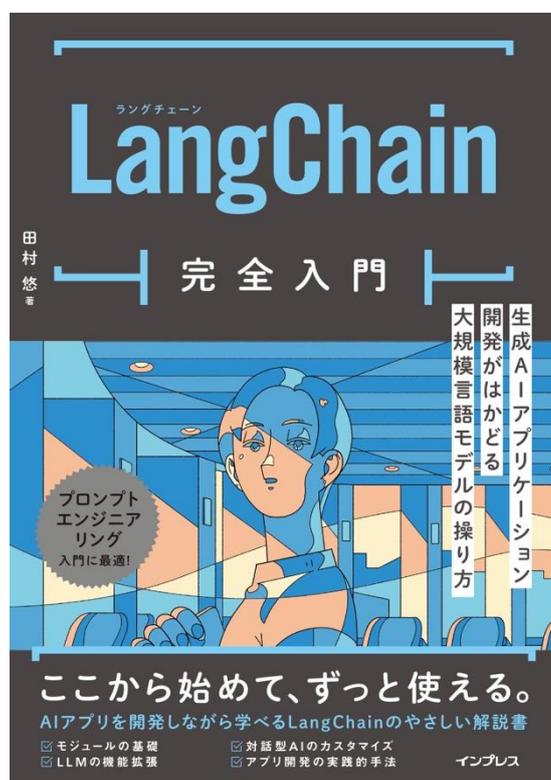


各 位

2023年10月23日  
株式会社インプレス

対話型 AI を効率的に開発するノウハウが凝縮！『LangChain 完全入門 生成 AI アプリケーション開発がはかどる大規模言語モデルの操作方法』を10月24日（火）に発売

インプレスグループで IT 関連メディア事業を展開する株式会社インプレス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：高橋隆志）は、対話型 AI 開発に欠かせないツール“LangChain”の実践的な活用手法を丁寧に解説した書籍『LangChain 完全入門 生成 AI アプリケーション開発がはかどる大規模言語モデルの操作方法』を2023年10月24日（火）に発売いたします。



■大注目！大規模言語モデルのライブラリ“LangChain”の解説書

LangChain（ラングチェーン）は Python や TypeScript のライブラリの 1 つで、ChatGPT など大規模言語モデル（LLM）を使ったアプリケーション開発を効率化する“便利な工具箱”のようなものです。LangChain をもちいることで、複雑で長い記述が必要なコードをコンパクトに記述できるため、これまでコーディングにかけていた時間を、新しいアプリやサービスのアイデア発想のために使えるようになります。LLM 開発用のライブラリはいくつかありますが、対話型 AI の黎明期に登場した LangChain は、機能の豊富さ、使いやすさといった点から多くの注目を集めています。その一方、海外発の比較的新しいライブラリであるため日本語の情報が少なく、体系的・実践的に学べる教材のニーズが高まっています。本書は、そのようなニーズにこたえ、LangChain の基礎知識から応用方法まで幅広く解説しています。

## ■LangChain を通じてプロンプトエンジニアリングのスキルも身につく

本書は、紙上で実用的な AI アプリケーション開発を行いながら LangChain の各機能を網羅的に学べる構成になっています。LLM の基礎知識にはじまり、LangChain の各モジュールの詳解、開発環境の構築方法、外部ツールを用いた効率的な開発手法など、初学者はもちろん、LLM をより深く活用したいエンジニアやビジネスリーダーにとっても役立つ内容が多く盛り込まれています。対話型 AI を意図通りに操るテクニックやアプリケーションに組み込むノウハウもしっかり解説しているので、本書を読み進めることでプロンプトエンジニアリングのスキルも身につきます。また、本書で開発するすべてのアプリケーションのソースコードはダウンロード提供しているため、手軽に試してみたい方でも無理なく LangChain を用いた AI アプリケーション開発を体験できます。

### <本書の特長>

- AI アプリケーションを開発しながら LangChain の各モジュールの活用法がよくわかる
- 実用度の高いサンプルソースコードを多数収録
- Python & VS Code に対応。さまざまなプラットフォームでの開発に活かせる
- プロンプトエンジニアリングを学ぶための最初の 1 冊にも最適

## ■紙面イメージ

section 01 # Callbacks / # イベント  
**Callbacksモジュールでできることを知る**

まずは基本を知る  
LangChainでは、言語モデルを使ったアプリケーションのさまざまな段階で介入できるCallbacksモジュールが用意されています。どのようなことができるのか見ていきましょう。

Logの取得やモニタリング、他アプリケーションと連携できる  
LangChainのCallbacksモジュールは、言語モデルを使ったアプリケーションで(Agentの実行開始時などの)イベント発生時に特定の処理を実行する機能です。このモジュールを利用することで、アプリケーションの詳細な実行ログをファイルやターミナルに出力できます。  
LangChainではさまざまなCallbacksが用意されており、Callbacksモジュールを使った一般的な機能は簡単に実装できます。  
さらに、第3章などで紹介したチャット画面を簡単に作成できるchainlitやその他の外部ライブラリ、アプリケーションと連携することも可能です。この連携機能により、異なるプラットフォームやツール間でのデータのやりとりを効率的に行えます。  
そして、ユーザーが独自のCallbacksを実装できるのもこのモジュールの特徴です。これにより、LangChainを利用するアプリケーションにさらなる拡張性を持たせることができます。  
次のセクションではCallbacksモジュールで外部ライブラリとの連携をする方法を学んでいきましょう。

LangChainで開発したアプリケーション

```
graph LR
    subgraph LangChain_Application [LangChainで開発したアプリケーション]
        direction TB
        A[処理A  
AgentsやChains実行など]
        B[処理B  
AgentsやChains実行など]
    end
    A --> B
    A --> C[Callbacksを実行]
    B --> C
    C --> D[ログ出力]
```

section 02 # chainlit / # 外部ライブラリとの連携  
**Callbacksモジュールを使って外部ライブラリと連携する**

途中の処理を見える化しよう  
このセクションではchainlitに用意されているLangChainと連携するための機能を使い、Callbacksモジュールがどのように動くのか見ていきましょう。

用意されているクラスを使うことで外部ライブラリと連携できる  
チャット画面を簡単に作成できるライブラリであるchainlitは、Callbacksモジュールを使ったLangChainと簡単に連携する機能を用意しています。このセクションではこの連携機能とAgentsモジュールを使ってどのようなことができるのか見ていきましょう。  
「07\_callback」というディレクトリを作成し、VS Codeの[ファイル]メニューの[新しいテキストファイル]から、「chainlit\_callback.py」というファイルを作成し以下の通り入力してください。

```
chainlit_callback.py
001 import chainlit as cl
002 from langchain.agents import AgentType, initialize_agent, load_tools
003 from langchain.chat_models import ChatOpenAI
004
005 chat = ChatOpenAI(
006     temperature=0,
007     model="gpt-3.5-turbo"
008 )
009
010 tools = load_tools(
011     [
012         "serpapi",
013     ]
014 )
015
016 agent = initialize_agent(tools=tools, llm=chat, agent=
017     AgentType.CHAT_ZERO_SHOT_REACT_DESCRIPTION, verbose=True)
```

Callbacks - やりかたやイベント発生時の処理を学ぶ

238 239

概念図をもちいた説明や丁寧なコード解説で要点が理解しやすい

## ■本書の構成

Chapter1 ChatGPT と LangChain

Chapter2 Model I/O — 言語モデルを扱いやすくする

Chapter3 Retrievers — 未知のデータを扱えるようにする

Chapter4 Memory — 過去の対話を短期・長期で記憶する

Chapter5 Chains — 複数の処理をまとめる

Chapter6 Agents — 自律的に外部と干渉して言語モデルの限界を超える

Chapter7 Callbacks — さまざまなイベント発生時に処理を行う

## ■書誌情報



書名：LangChain 完全入門 生成 AI アプリケーション開発がはかどる大規模言語モデルの操り方

著者：田村 悠

発売日：2023年10月24日（火）

ページ数：256 ページ

サイズ：A5 正寸

定価：3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）

電子版価格：3,190 円（本体 2,900 円＋税 10%）※インプレス直販価格

ISBN：978-4-295-01796-7

◇Amazon の書籍情報ページ：

<https://www.amazon.co.jp/dp/4295017965/>

◇インプレスの書籍情報ページ：

<https://book.impress.co.jp/books/1123101047>

◇書影ダウンロードページ：

<https://dekiru.net/press/501796.jpg>

## ■著者プロフィール

田村 悠（たむら はるか）

1990年東京都生まれ。フリーランスフルスタックエンジニア

0→1で多数のWebサービスを開発し、運用。

ベースフード株式会社では一人目のエンジニアとして参画し、定期購入システムを構築、その後上場までフロントエンド、バックエンド、インフラすべてを対応。

ChatGPTに衝撃を受け、AI関連の技術に興味を持ち動画に翻訳字幕をつけられるWebサービスを個人開発でリリース（konjac.ai）。

以上

【株式会社インプレス】 <https://www.impress.co.jp/>

シリーズ累計7,500万部突破のパソコン解説書「できる」シリーズ、「デジタルカメラマガジン」等の定期雑誌、IT関連の専門メディアとして国内最大級のアクセスを誇るデジタル総合ニュースサービス「Impress Watchシリーズ」等のコンシューマ向けメディア、「IT Leaders」をはじめとする企業向けIT関連メディアなどを総合的に展開・運営する事業会社です。IT関連出版メディア事業、およびデジタルメディア&サービス事業を幅広く展開しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【本件に関するお問合せ先】

株式会社インプレス 広報担当：丸山

E-mail: [pr-info@impress.co.jp](mailto:pr-info@impress.co.jp) URL : <https://www.impress.co.jp/>

※弊社はテレワーク推奨中のため電話でのお問い合わせを停止しております。メールまたは Web サイトからお問い合わせください。